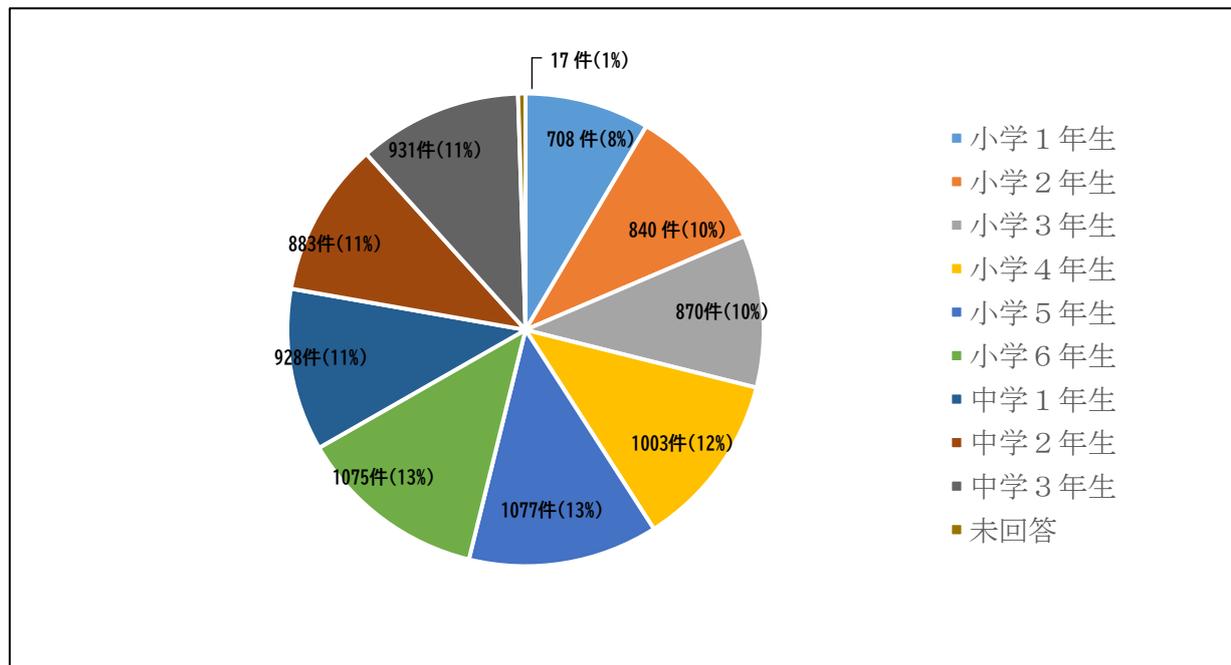
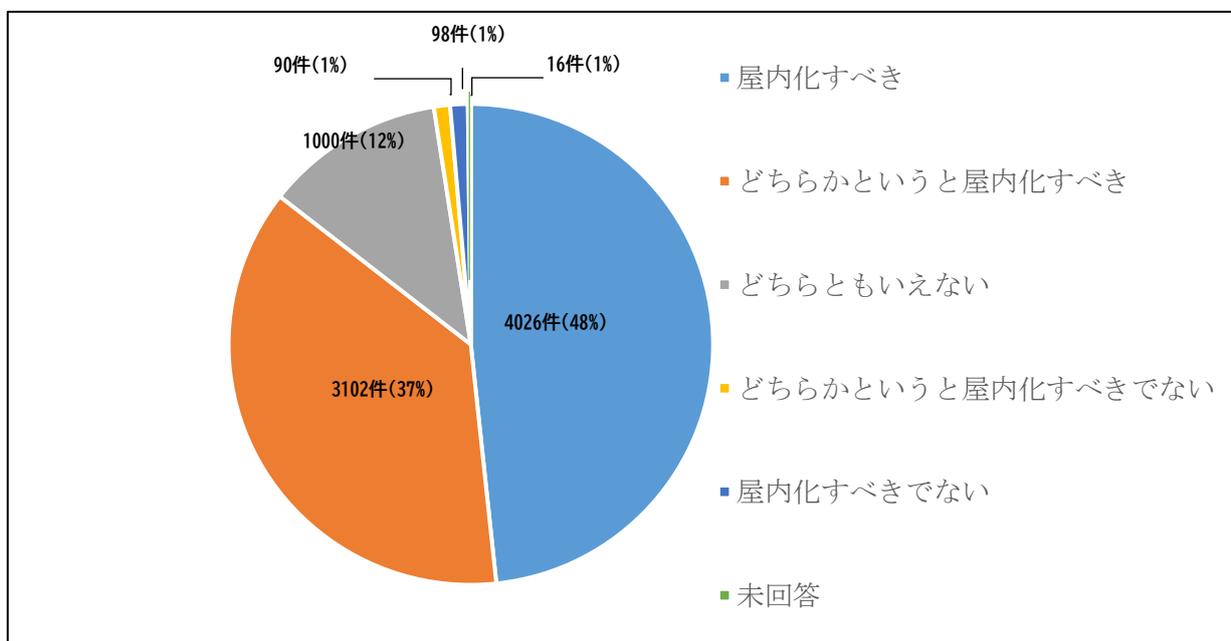


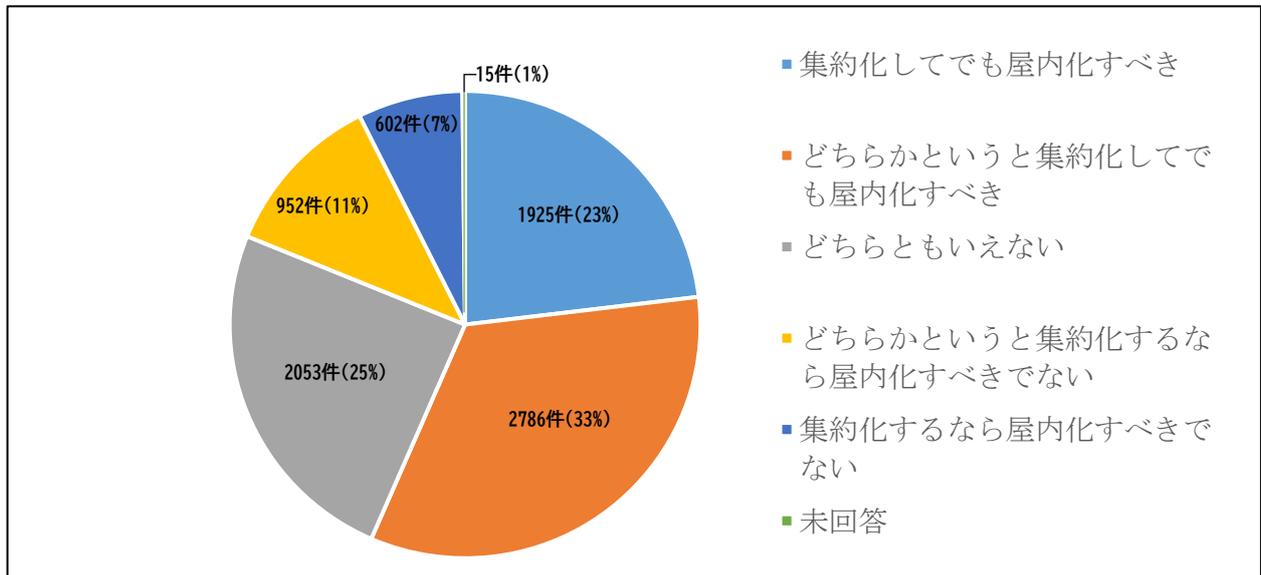
1 お子様の学年を伺います（複数の場合は最高学年）。



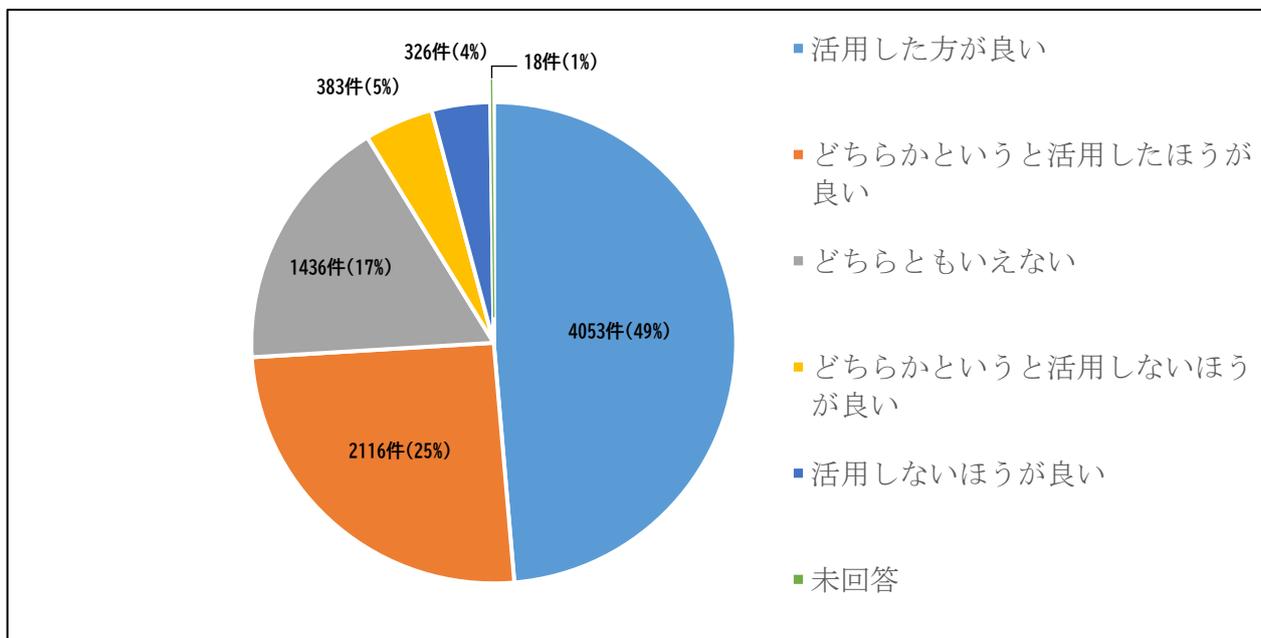
2 今後、学校プールを屋内化していくことについての考えを伺います。



3 プールを屋内化する場合、財政的な負担を考慮すると全ての学校に整備できないため、拠点を設けて集約化する（授業時に移動が伴う。）ことを検討しています。集約化して屋内プールを設けることについての考えを伺います。



4 屋内化の手段として、民間で運営するプールを活用する手法もあります。民間プールの活用について考えを伺います。



5 自由記述(屋内化、集約化、民間プールの活用に関して思うことや提案など)
 回答：3, 125件

テーマ(自由記述を内容ごとに分類)	主な意見
屋内化について	<p>通年で水泳授業ができるので賛成。 天候に左右されず実施できるから良い。 水温管理、衛生管理がしやすくなるから良い。 熱中症対策として有効である。 屋内化することにより施設が通年で利用でき、有効活用できるのが良い。 水泳大会などでも利用でき、施設を有効活用できる。 地域利用可能施設としても価値がある。 屋内プールであれば全校で安定的に授業ができる。 屋内プールは全校公平に整備されるべきである。</p>
集約化について	<p>屋内化・集約化には賛成だが、移動による熱中症リスクへの対策が必要。 拠点への徒歩移動は低学年には負担が大きい。 異常気象への対応として集約化は有効だが、季節を問わず授業できる環境が望ましい。 集約化するならば、移動手段の整理が必要である。 移動による授業時間の減少が懸念される。 地域プールとして整備し、学校が利用しない時間を一般開放するのが良い。 集約化することにより施設の効率的利用につながる。 集約化には予算と計画性が必要。</p>
屋外プールについて	<p>天候の影響が大きい。 屋内化が望ましいが、屋外でも対応可能な工夫(屋根設置など)が必要。 猛暑による熱中症リスクが伴う。 全校に屋根を設置して暑さを緩和すべき。 水泳授業の時期変更や日よけ設置で暑さ対策が可能である。 シェードやテントの設置を検討してほしい。 年々暑さが厳しくなり、使用が難しくなっていると感じられる。 屋外プールでも安全に使えるような設備が必要である。 維持管理が難しく、衛生面の課題もある。</p>
民間プール活用について	<p>公立での屋内プール設営が難しいなら、民間プールの活用が現実的である。 ぜひ活用してほしい。 熱中症リスクや教員負担の軽減につながる。 移動手段や人員確保など課題もある。 受入れ施設の空き状況に左右される。</p>
その他	<p>猛暑の中での授業は熱中症リスクが高く、屋内化が望ましい。 暑さ指数を考慮すると、今後屋外プールでの授業は困難になるのではないかと思う。 暑さ対策への対応として屋内化・集約化は賛成。 暑さの中でも水泳授業は継続してほしいが、安全対策が必要となる。 暑すぎてプールに入れない状況が発生するため、屋内化・民間プール活用が必要。 暑さ対策には施設整備だけでなく、移動手段の工夫も必要。 子供の健康と安全のためにも暑さ対策は必要。 水泳は全身運動であり、授業として継続してほしい。 水に慣れることは事故防止にもつながる。 水泳授業は体育の一環として重要である。</p>